

2003年2月3日

北海道知事 堀 達也 様

(社) 北海道自然保護協会

会長 俵 浩三

十勝自然保護協会

会長 安藤 御史

「止めよう日高横断道路」全国連絡会

常任委員長 今野平支郎

日高横断道路（道道静内中札内線）に対して 知事が「中止」とすることを求める緊急要望書

日高横断道路（道道静内中札内線）の特定政策評価は、知事が最終判断する時機を迎えました。これまでの審議経過では、当該道路は「当分、新規の改築工事を行わない」という「特定政策評価調書（案）」の結論が公表されています。いわゆる「凍結」です。

しかし「凍結」は、再開可能の選択肢を残し、読む人により解釈が異なる「あいまい」な表現です。特定政策評価委員会からは、当該道路は優先性だけでなく「必要性、妥当性が低下した」という、明確な客観的判断が示されましたが、重く受けとめるべきです。また事務当局は「『当面』は再開するという意味ではない」と委員会で説明しています。事実上、再開が不可能であると認識すべきです。

このような状況の中で道政の最高責任者である知事に求められるのは、北海道の将来を見据える大きな視野に立った英明な判断です。堀知事には、時のアセスメントの土幌高原道路の判断に際し、困難な状況にもかかわらず、事務当局の凍結案を明確な中止に導いた実績があります。今回の特定政策評価は、時のアセスメントを継承発展させたものですから、さらなる前進が望まれます。

日高山脈は日本に残された最大の優れた原始境です。多くの道民は、日高山脈の心臓部には道路を通すべきではなく、無傷のまま、北海道が世界に誇る自然遺産として、後世に残す道を選んでほしいと願っています。

知事の最終判断に当たっては、多くの道民の願いに応え、「当分」というあいまいな表現を避け、明確に「中止」とし、現在の人々だけでなく後世の人々からも、英明な判断だったと評価される決断をされるよう、要望いたします。